

## 2016年度点検・評価シート

### I 評価項目・担当部局

対象部局	統括：大学自己点検・評価委員会	担当：学長（入試委員会委員長）、学生支援センター、入試広報部
評価基準5	学生の受け入れ 【自己評定 A】	
点検・評価項目(1)	5-1 学生の受け入れ方針を明示しているか。	
評価の視点	求める学生像の明示 【学長（入試委員会委員長）】	
	当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 【学長（入試委員会委員長）】	
	障がいのある学生の受け入れ方針 【学生支援センター】	
点検・評価項目(2)	5-2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。	
評価の視点	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 【入試広報部】	
	入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性 【入試広報部】	
点検・評価項目(3)	5-3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	
評価の視点	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 【入試広報部】	
	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応 【入試広報部】	
点検・評価項目(4)	5-4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。	
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【入試広報部】	

### II 点検・評価

#### 【点検・評価項目ごとの現状説明】

5-1	<p>大学および学部・学科、研究科・専攻・課程が求める学生像や、入学するにあたって修得しておくべき知識等の内容・水準を示す「学生の受け入れ方針」（アドミッション・ポリシー）については、2012年度に、当時の自己点検・基本事項検討委員会（現在は大東文化学園自己点検・評価推進委員会）での議論を経て、各学部教授会、研究科委員会において明文化の作業を行い、現在は大学のホームページ、『一般入学試験要項』『推薦入学試験要項（公募制推薦・自己推薦〈前期・後期〉）』『大学院案内』『大学院入学試験要項』等に掲載し、受験生を含めて広く社会に公表している(B5-1、B5-6、B5-7、A5-1、A5-2-1、A5-3-1、A5-4、A5-5-1)</p> <p>障がいのある学生の受け入れについては、学生支援センターが作成した「障がい学生受け入れのガイドライン」を大学のホームページや各種入学試験要項等に掲載してきたが、2015年7月に、大学として新たに「障がい学生支援の基本方針」を制定し、ホームページで公表している(B5-2、B5-3)。</p> <p>大学の定めた「学生の受け入れ方針」（アドミッション・ポリシー）および「障がい学生支援の基本方針」は、以下のとおりである。</p> <p style="text-align: center;"><b>大学のアドミッション・ポリシー</b></p> <p>アドミッションとは入学のことで、アドミッション・ポリシーは大学が掲げる目的を達成するために、どのような人を受け入れるかの方針を定めたものです。</p> <p>大東文化大学は1923（大正12）年に、東洋の文化を教授・研究するために創立された歴史ある大学であり、これまで10万人をこえる卒業生を社会に送り出してきました。また、アジアを中心に70をこえる世界の大学、研究機関と交流協定を結び、多くの留学生を受け入れ、大東大生を海外に派遣してきました。</p> <p>「東西文化の融合」を建学の精神に掲げる本学は、世界の歴史・社会・文化に関心を持ち、日本文化への深い理解と異文化への共感をもって地域社会と国際社会に貢献し、豊かな人間性と深い学識をもって現代社会のさまざまな課題の解決に力を尽くすために、基礎的な学力を有し、自ら学び発展しようとする高い勉学意欲を持った人に学びの場を提供しています。</p> <p>主な入学試験の概要は以下のとおりです。</p> <p>（1）自己推薦入試（前期・後期）</p> <p>自分の能力、資質をアピールしてみずからを推薦する入試制度です。強い学習意欲を重視し、自己アピール力が問われます。自己推薦書、筆記試験、面接などから総合的に可否を判定します。</p> <p>（2）公募制推薦入試</p> <p>調査書、面接、小論文などにより総合的に判定し、選考する推薦入試制度です。</p> <p>評定平均値などの出願基準があり、高等学校での学びの成果が評価されます。</p> <p>（3）センター利用入試（前期・中期・後期）</p> <p>大学入試センター試験から1ないし3教科を利用して行ないます。大学での学修に必要な学力があるかどうかを問うもの</p>
-----	--

	<p>で、試験の成績と書類審査により可否を判定します。本学での個別の学力試験は実施しません。</p> <p>(4) 全学部統一入試(2教科)</p> <p>国語(現代文)と英語の2科目で筆記試験を行ない、基礎的な学力が備わっているかどうかを評価します。北海道から沖縄までの二十数都市に試験会場を設置し、全学部で同一日に実施します。</p> <p>(5) 一般入試(3教科)</p> <p>全学科で英語、国語、選択科目の3科目で筆記試験を行ないます。学科によっては科目得点の比重が変わりますが、総合的な学力のバランスが求められ、入学後の学修に必要な学力があるかどうかを判定します。</p> <p style="text-align: center;"><b>障がい学生支援の基本方針</b></p> <p>大東文化大学は、教育の理念として「アジアから世界へ——多文化共生を目指す新しい価値の不断の創造」を掲げています。「共生」は、異なる民族や文化のあいだのことだけでなく、さまざまな個性を持った人間同士の共生も含みます。この理念を学生生活全体のなかで実現することを基本方針としています。</p> <p>障がいのある学生も、ダイバーシティ(多様性)を大切にする教育や大学運営の重要な一員です。</p> <p>また、DAITO VISION 2023 では、「自主・参加・共同による学生生活を支援する」ことを目標に掲げ、「様々なニーズを持つ学生を支援する」としています。現代社会では、インクルーシブエデュケーションの考え方や実践が広がっています。これらに基づき、本学は障がいのある学生一人ひとりの個性を尊重し、その多様なニーズに適切に応えることを通して、障がいのある学生が、障がいのない学生と共生しつつ、同等の教育を受けることができるようサポートし、自立して学生生活に参加できるよう支援していきます。</p> <p>障がい学生支援室・学生相談室をはじめとする学生支援センターは、全学の教職員、そしてボランティア学生と協力して障がいのある学生をサポートしていきます。ボランティア活動は学生にとって自らが学ぶ機会となっており、ひきつづきこの活動を推進していきます。</p> <p>障がい学生支援室・学生相談室は、学内外の関連諸機関との連携を強め、障がいのある学生への支援をより質の高いものにしていくことを目指します。</p>
5-2	<p>本学は、入学者の募集と選抜に関して、「大東文化大学入学試験委員会規程」(2004年制定)および「大東文化大学入学者選抜試験規程」(1989年制定)を定め、学部の入試はこの規程に基づいて実施している(B5-4、B5-5)。これは8学部19学科に共通のものである。</p> <p>前者の規程は、学部の学生募集と入学試験を統一的に計画・準備・実施するための基本的事項を審議する「入学試験委員会」の職務等に関して、審議事項を定めている。その主なものは、以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①学生募集および入学試験についての長期計画の策定</li> <li>②学生募集に関する年度計画の立案</li> <li>③本学の入学試験の基本方針の策定</li> <li>④大学入試センター試験実施に当たっての基本方針の策定</li> <li>⑤各学部入学許可予定者数の調整</li> <li>⑥入学許可者選考基準の立案</li> </ol> <p>入学試験委員会は学長を委員長、学部長・学科主任、東松山キャンパス運営委員会委員長、学務局長等を委員とし、委員会には出題と採点を担当する出題部会、採点部会が置かれている。</p> <p>後者の規程は、試験監督など入試を円滑に実施するための組織および分掌について定めたものである。この規程により、学長が入学試験にかかわるすべての職員を指揮し、入学試験の諸業務を統括すること、入試実施期間中は学長の下に入学試験実施本部を置くことになっている。</p> <p>入学者選抜の方式については、以下のとおりである(d1-表3)。</p> <p>学力選抜入試：全学部統一入試(前期・後期)、一般入試(3教科)、センター試験利用入試(前期・中期・後期)</p> <p>推薦入試：自己推薦入試(前期・後期)、公募制推薦入試、大東文化大学第一高校推薦入試、指定校推薦入試、スポーツ推薦入試(前期・後期)</p> <p>その他：社会人入試、外国人留学生入試(前期・後期)</p> <p>学生募集にあたっては、アドミッション・ポリシーに基づいて、各学部・学科において入学者選抜方式ごとに適切な募集人員や試験科目等を設定し、大学のホームページ、『大学案内 CROSSING』『入学試験要項』等の媒体を通じて、適切に周知を図っている(B5-6、A5-1、A5-2-1、A5-2-2、A5-2-3、A5-2-4、A5-2-5、A5-3-1、A5-3-2、A5-3-3、A5-3-4、A5-3-5)。</p> <p>入学者選抜(可否判定)については、公平性と透明性の原則に則り、各学部教授会において厳正かつ適切な手続きに従って行っている。さらに、公平性と透明性を確保するために、入試結果をホームページ、『大学案内 CROSSING』に掲載するほか、入試問題とその正解をまとめた『過去問題集』を作成し、ホームページにも掲載している(B5-6)。</p>

	<p>入試問題の作成および採点は、入学試験委員会の出題部会、採点部会が担当している。入試問題の適切性については、出題部会、入学試験実施本部（学長、副学長、学務局長、学部長、出題部会長、採点部会長等が構成員）、学外の分野別専門家による三重のチェック体制がとられている。</p> <p>以上のように、本学は明確な規程に基づく責任体制と手続きに則って、公正かつ適正に入学者の募集と選抜を行っている。</p> <p>本学の入学募集と選抜は、全学部統一の要領・手続きに基づいて行われるため、以上に述べたことは全学部共通のものである。</p> <p>入学者の質を確保するための指標となる一般入試の倍率、学力選抜（全学部統一入試、一般入試、センター試験利用入試）による入学者の比率（2016年度）については、学科別に別表で示す。3教科による一般入試は、毎年2月5日から8日までの4日間行われ、本学の学科目入試の中核をなすものである（B5-22 d2-表 34）。</p>
5-3	<p>学部および研究科の入学定員と収容定員は、学科また専攻・課程ごとに、それぞれの設置の経緯と趣旨、学問分野の特性、志願者動向などを勘案して適切に設定し、学則と大学院学則に定めている（A5-6 第12条、A5-7 第5条）。</p> <p>学部の在籍学生数の管理については、単年度の入学定員超過率および4年間の平均入学定員超過率を勘案しつつ、年度ごとの受け入れ目標数を設定し、例年10月開催の入学試験委員会において翌年度入試の「入学定員管理表」の承認を受け、大学評議会において報告を行うことにしている。</p> <p>入学選抜にあたっては、過去の入学手続き率などを参考にしつつ、それぞれの学生受け入れ目標数に基づいて、学部教授会で合否判定を行っている。</p> <p>年度ごとの学生の受け入れおよび在籍学生数の管理は、所定の手続きに基づいて行われ、別表に示すように、学部の収容定員に対する在籍学生数比率は適切な水準を保っている（d1-表 3、表 4、B5-22 d2-表 33）。</p>
5-4	<p>5-2 で述べたように、本学は、学生募集と入学選抜に関する基本事項を審議する全学組織として、「大東文化大学入学試験委員会」を設置している（B5-4）。学長を委員長として、学部長・学科主任、東松山キャンパス運営委員会委員長、出題部会長、採点部会長、学務局長が構成メンバーである。委員会は定期的に開催され（2015年度は4回）、学生募集に関する長期および年度ごとの計画、センター利用入試を含む入学試験の基本方針、学部・学科の受け入れ者数などを審議する。したがって、学生の受け入れ方針に基づき、学生募集と入学選抜が公正かつ適切に実施されているか、について定期的な検証を行うのは、第一にこの入学試験委員会であり、それは十分に機能していると判断する。</p> <p>また、入学試験委員会の下には「入試プロジェクト会議」が置かれ、委員長の諮問により個別課題の検証・立案・提言等を行う体制が整えられている。</p> <p>各学部・学科においても、入学試験委員会での審議を受けて、それぞれの学生募集と入学選抜について教授会、学科協議会等を中心に検証を行う体制を整えている。</p> <p>さらに、毎年度の自己点検・評価活動においても、学部および研究科の学生の受け入れについて、大学基準に準拠した基準「学生の受け入れ」を点検・評価シートの第5章に設定し、組織的な検証を実施している（B5-11）。</p> <p>以上に述べた検証の結果は、学部教授会等を通じて教員に周知され、翌年度の入学募集と選抜に反映される。</p>

**【効果が上がっている事項】**

5-1	<p>2012年度に、自己点検・基本事項検討委員会（当時）で全学的な議論を行い、大学、学部・学科、研究科・専攻・課程において、「学位授与方針」「教育課程の編成・実施方針」とともに、「学生の受け入れ方針」を明文化した。これにより、学生募集にあたって、ホームページを通じて、求める学生像、修得しておくべき知識の水準等が受験生に明確に示せるようになった（B5-6、A5-1、A5-4）。</p> <p>障がいのある学生の受け入れについては、「障がい学生の受け入れガイドライン」に基づき、ホームページ、一般入学試験要項、推薦入学試験要項（公募制推薦/自己推薦）に出願前の手続きを掲載し、志願者から受験前に情報を得ることにより、あらかじめ受験生の受け入れ準備ができる体制になっている（A5-2-1、A5-3-1）。入学決定後は、「入学後の修学支援内容確認」を行うことにより、年度当初のガイダンス、履修登録、授業等での受け入れ準備ができるようになっている（B5-2）。</p>
5-2	
5-3	
5-4	

**【改善すべき事項】**

5-1	
5-	学部の在籍者（11,650人）に占める女子学生の比率は33.0%（3,845人）である。（2016年5月1日現在）女子の大学進

2	学率は47%程度であるから、本学の比率はそれを大きく下回っており、一部の学部では10%台にとどまっている(2016年5月1日現在)。女子学生の入学者を増やすことは、大学として優先的に検討すべき課題の一つである。
5-3	学部では、一部の学科で定員未充足が続いている。文学部中国学科は2014年度と2015年度、外国語学部中国語学科は2012年度から2015年度まで4年連続で、入学定員に欠員が生じている(d1-表4、B5-22 d2-表33)。一部学科の未充足は、広報活動等の強化だけでは改善されない構造的な問題であり、全学で取り組むべき課題として認識されている。2016年度は両学科とも入学定員を満たした。
5-4	受験生への情報提供の有力な媒体であるホームページについて、学部・学科の情報更新の頻度に大きな差があり、低調な学部・学科で頻度を高め発信力を強化する必要がある。2016年4月1日よりホームページのリニューアル化を図る予定である。

**本項目の根拠資料(データ類、裏付けとなる資料)**

A5-1	大学案内「CROSSING2016」 <既出>A1-6
A5-2-1	2016年度 大東文化大学 一般入学試験要項
A5-2-2	2016年度 外国人留学生募集要項[学部生]
A5-2-3	2016年度 社会人特別選抜試験要項
A5-2-4	2016年度 編入学試験要項(3年次編入)(2年次編入)
A5-2-5	2016年度 科目等履修生募集要項
A5-3-1	2016 推薦入学試験要項【公募制推薦/自己推薦(前期)(後期)】
A5-3-2	2016年度 指定校推薦入学試験要項
A5-3-3	2016年度 大東文化大学第一高等学校推薦入学試験要項
A5-3-4	2016年度 工学院大学附属高等学校推薦入学試験要項
A5-3-5	2016年度 スポーツ推薦入学試験要項
A5-4	大東文化大学大学院案内2014 <既出>A1-7
A5-5-1	2016年度大学院入学試験要項
A5-5-2	2016年度文学研究科推薦入学試験募集要項
A5-5-3	2016年度経済学研究科推薦入学試験募集要項
A5-5-4	2016年度法学研究科推薦入学試験募集要項
A5-5-5	2016年度外国語学研究科推薦入学試験募集要項
A5-5-6	2016年度アジア地域研究科推薦入学試験募集要項
A5-5-7	2016年度経営学研究科推薦入学試験募集要項
A5-5-8	2016年度大学院入学試験要項【北京入試用】外国語学研究科
A5-6	大東文化大学学則 <既出>A1-1
A5-7	大東文化大学大学院学則 <既出>A1-2
B5-1	大東文化大学ホームページ大東文化大学の基準別基本方針 <a href="http://www.daito.ac.jp/information/about/basicpolicy.html">http://www.daito.ac.jp/information/about/basicpolicy.html</a> <既出>B1-5
B5-2	身体に障がいがある学生の受け入れについて
B5-3	障がい学生支援の基本方針
B5-4	大東文化大学入学試験委員会規程
B5-5	大東文化大学入学者選抜試験規程/大学院アジア地域研究科入学試験に関する細則
B5-6	大学HP 入試情報 <a href="http://www.daito.ac.jp/admission/index.html">http://www.daito.ac.jp/admission/index.html</a>
B5-7	大学HP 大学院入試情報 <a href="http://www.daito.ac.jp/education/graduate_school/admission/index.html">http://www.daito.ac.jp/education/graduate_school/admission/index.html</a>
B5-11	大学ホームページ(自己点検・評価活動) <a href="http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html">http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html</a> <既出>B1-16
B5-13	障がい学生支援について <a href="http://www.daito.ac.jp/campuslife/Disability_support.html">http://www.daito.ac.jp/campuslife/Disability_support.html</a> <a href="http://www.daito.ac.jp/news/details_4663.html">http://www.daito.ac.jp/news/details_4663.html</a>
B5-17	平成27年度大東文化大学改革推進会議開催概要
B5-18	平成28年度事業計画兼業務確認シート(案)(入試広報部)
B5-21	大学ホームページ(情報公開) <a href="http://www.daito.ac.jp/information/open/index.html">http://www.daito.ac.jp/information/open/index.html</a> <既出>B1-6
B5-22	大学データ集 <既出>B1-22
<大学基礎データ>	
d1-表3	学部・学科、大学院研究科、専門職大学院の志願者・合格者・入学者の推移
d1-表4	学部・学科、大学院研究科、専門職大学院等の学生定員及び在籍学生数

〔追加資料〕

Ⅲ【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価					
			2014	2015	2016	2017	2018	
中期目標 (2014～ 2018)	〔入試広報課〕 5-2 ・安定的な志願者・入学者が確保できている。学力選抜（一般入試）による入学者と非学力選抜（推薦入試等）による入学者の適正な比率が保たれている。一定の学力水準を維持するための選抜機能を入試が果たしている。 ・女子学生の入学者を増やすことは、大学として優先的に検討すべき課題の一つである。	・入学定員が適正に確保されている。 ・受験倍率 3.0 倍以上、学力選抜入学者比率 60%、センター利用入試の平均得点率 65%が確保できている。	→			A		
	14 年度 目標	〔入試広報課〕 5-3 ・入学定員（2,590 人）を適正に維持する。	→	S				
	〔入試広報課〕 5-2 ・学力選抜入学者と非学力選抜入学者の適正な比率を維持する。	→	A					
	〔学生支援センター〕 5-1 ・障がいのある学生の受け入れ方針を策定する。	→	S					
15 年度 目標	〔入試広報課〕 5-3 ・入学定員（2,590 人）を適正に維持する。	・左記の入学者が確保できている。		S				
	〔入試広報課〕 5-2 ・学力選抜入学者と非学力選抜入学者の適正な比率を維持する。	・学力選抜入学者の比率が 55%以上である。		A				
16 年度 目標	〔入試広報課〕 5-3 ・入学定員（2,590 人）を適正に維持する。	・左記の入学者が確保できている。			S			
	〔入試広報課〕 5-2 ・学力選抜入学者と非学力選抜入学者の適正な比率を維持する。	・学力選抜入学者の比率が 55%以上である。			A			